

大日本住友薬とサンバイオ 脳梗塞治療剤を共同開発

大日本住友製薬はサンバイオ（東京都中央区、森敬太社長、03・6264・3481）と慢性期脳梗塞の治療剤を共同開発する。サンバイオが開発する細胞医薬品「SB623」について、米

国とカナダにおける共同開発と独占販売権のライセンス契約を同社の米国法人と結んだ。米国でのスケジュールは、2015年3月までに臨床試験フェーズⅡbを開始、21年3月までの販売を見込

む。大日本住友製薬は開発段階に応じた開発マイルストーン（成功報酬）を含み、計で8000万ドル、販売後は販売額に応じた2ケタ台（少なくとも10%）の料率のロイヤルティ

を支払う。さらに年間販売額が目標額に達した場合、ロイヤルティとは別に販売マイルストーンとして最大1億2500万ドルを支払う。SB623は健康人から採取した骨髄液を加工、培養し、中枢神経細胞の再生を促すことで慢性期脳梗塞患者を治療する細胞医薬品。米国でフェーズⅠ／Ⅱaが完了し

ている。慢性期脳梗塞の治療剤は、現在では世界でも販売されているものはない。